

令和6年度 第1回学校運営協議会 報告

1 目的

今年度の学校経営計画及び運営方針に基づいた指導成果指標、各分掌の重点目標や各種取り組み内容等の計画について協議する。また委員の方々から本校の学校運営に関する御意見等を頂戴し、地域に開かれた特色ある学校づくりをより一層推進するとともに学校活性化のための方策について共に考え、本校教育の充実・発展に寄与する。

2 日時

令和6年6月10日（月）13:00～14:30

3 場所

本校大会議室

4 出席者

会長 渡 邊 学（岩手大学農学部附属寒冷F S C准教授）
副会長 畠 山 栄 一（新岩手農業協同組合常務理事）
委員 遠 藤 岳（滝沢市立滝沢第二中学校長）
委員 鳥 居 薫（国際ソロプチミスト盛岡トレジャー）
委員 柵 山 和 代（前PTA役員）【欠席】
委員 高 橋 正 明（同窓会支部事務局長）
委員 川 村 尚 雄（滝沢市川前自治会長）
委員 鈴 木 稔（セブンスヘブンファーム代表取締役）
委員 藤 澤 信 也（白石食品工業(株)ホールセール事業部マネージャー）
委員 田 山 千 晶（(社福)いわて共同福祉会特別養護老人ホームはなみずき施設長）
委員 近 藤 修 三（滝沢里山研究会事務局長）【欠席】

【本校職員】

校 長	菊 池 郁 聡	動物科学科主任	菊 池 文 明
副 校 長	川 口 史 朗	植物科学科主任	今 野 直 美
副 校 長	市 丸 成 彦	食品科学科主任	藤 本 正 彦
事 務 長	福 田 隆	人間科学科主任	日 山 玲
総 務 主 任	勝 又 靖（兼委員）	環境科学科主任（代理）	北 田 貴 紀
教 務 主 任	金 野 美 香	特別専攻科主任	谷 地 禎 彦
生徒指導主事	北 山 安 貞		
進路指導主事	越 田 正 信		
舎 監 長	佐 藤 恒 顕		
保 健 主 事	木 戸 口 俊 子		
図 書 主 任	亀 井 敦 子		
農 場 長	菊 池 文 明（兼委員）		

5 次第及び内容（要旨）

（1）開会

（2）学校長挨拶

本校の生徒は、それぞれの学科において命あるものを学習教材として専門的な知識と技術を学んでいる。学力向上はもちろんのこと、豊かな人間性や生きる力を育成し、社会人としての礼儀やマナーについても学校教育活動を通じて身につけさせたいと考えている。

今年度は122名の新入生を迎え、全校生徒428名で学校生活がスタートした。本日は前期中間考査期間であり、生徒たちは試験に向けて一生懸命に取り組んでいるところである。

先般開催された県高等学校総合体育大会においては、自転車競技部と相撲部がインターハイ出場を決めている。また、中学校時代に馬術競技に取り組んできた生徒が入学しており、1年生ながら東北大会3位に入賞したことから、この生徒についても全国大会出場を決めている。その他、県ベスト16まで勝ち上がる競技もあるなど、部活動においても生徒たちは活躍していると感じている。

毎年10月に農業クラブの全国大会が開催され、今年度は岩手大会として本県を会場に全国の参加者をお招きして開催することとなる。大会事務局を本校に置き、県内の農業関係高校の生徒と教職員が大会の成功に向けて一丸となって取り組んでいる。県内の生徒たちの選手としての活躍も期待している。

本日は本校のさらなる活性化に向けて様々な御意見をいただき、その御意見については、今後の学校運営に取り入れて参りたい。

（3）会長選出

渡邊委員（岩手大学農学部准教授）が会長に選任

（4）自己紹介

（5）報告

ア 令和6年度学校概況

- ・在籍者数
- ・自彊寮入寮者数
- ・通学方法
- ・出身中学校及び出身中学校別在籍者数、出身地域別在籍割合
- ・部活動加入者数

イ 令和6年度部活動成績（高校総合体育大会等 成績）

- ・相撲、自転車（ロード）、馬術が全国高校総体（インターハイ）への出場権獲得
- ・今後、陸上、自転車が東北大会の結果により出場権獲得

ウ 令和6年度「盛農我らの軌跡」（新聞掲載記事等の紹介）

（6）協議

ア 令和6年度学校経営計画【校長】

イ 令和6年度各課・科重点目標【各課・学科主任】

ウ 令和6年度「魅力化協働パートナー」との連携事業【各学科主任】

上記協議事項はすべて承認された。

(7) 委員の皆様から（質問、提言、指導・助言等）

【学校運営協議委員 A委員】

今年度は農業クラブの全国大会が岩手県で開催される。このことについて、県内の農業高校生の取組状況について伺う。

【校長】

農業クラブ活動は、生徒が主体となって行う学習活動である。全国大会の開催に当たっては、県内の生徒実行委員会を組織し、各高校が役割を分担して各種発表会と技術競技会を運営することとなっている。大会最終日は盛岡タカヤアリーナを会場に大会式典を開催するなど、生徒が前面に出て行う学習活動である。

来週からリハーサル大会に位置付けた県連盟大会が開催され、それぞれの会場において生徒が主体となって運営の準備を進めている。

また、5月に農業クラブの全国春季代議員会が開催され、岩手大会生徒実行委員として5名が参加し、各種発表会と技術競技会の発表順の抽選会を実施した。生徒たちの運営は素晴らしく、農業クラブ活動に取り組む生徒たちが成長している姿を見ることができた。

【学校運営協議委員 H委員】

農場当番実習は、寮生のみが行っているものか伺う。

【農場長】

コロナ禍以前は、当番生徒は校地内に宿泊して朝夕2回の搾乳実習を行っていたが、現在は宿泊せず、夕方のみ搾乳実習を行っている。寮生のみの実習ではなく、動物科学科の生徒全員が当番制で行っているものである。

【学校運営協議委員 A委員】

日本農業技術検定を立ち上げる際、検定の在り方に係る検討にかかわった経緯がある。農学部が受験する際は1級の受験を推奨しているが、合格するためには相当の時間をかけて勉強する必要がある。

高校では、検定に向けてどのように学習に取り組ませているか伺う。

【農場長】

動物科学科1年生は3級を受験し、例年8割程度の合格率である。出題は科目「農業と環境」の学習内容が中心であることから、日常の授業において試験対策も意識して学習に取り組ませている。植物科学科2年生が2級を受験するが、合格レベルに到達することは難しく、クラスで10名程度の合格者数である。

【学校運営協議委員 F委員】

かつては、食品科学科において、学校の乳牛から搾乳した乳を原料として牛乳を製造していたが、現在も学校で牛乳を製造しているか伺う。

【食品科学科主任】

毎週月曜日の実習時間に、食品科学科の生徒が学校で搾乳した乳から 250ml 紙パックの牛乳を製造している。製造した牛乳は、職員への販売や寮生の食事に提供することとしている。

【学校運営協議委員 B 委員】

資料「魅力化協働パートナーとの連携事業」から、学校と地域が協働して専門性の高い学習活動を展開していることがわかる。各学科に関する地域産業の現場を知る良い機会にもなるので、今後も魅力化協働パートナーとの連携を深化させ、学習活動を推進してほしい。

【学校運営協議委員 F 委員】

少子化による県内生徒の減少が著しい。各市町村においては小中学校の統合が課題となっており、高等学校においても同様であると認識している。専門高校についても入学者の減少により定員を満たしていない学校が多いが、今後の高校再編に関する県の動きがあれば伺う。

【校長】

「新たな県立高等学校再編計画後期計画」においては、令和 7 年度に不来方高校と盛岡南高校、久慈東高校と久慈工業高校が統合する計画となっている。また、県南地域では水沢工業高校と一関工業高校が統合する計画となっているが、現時点では学校設置場所等は未定である。

県教育委員会では、県内各地域において次期再編計画の在り方を検討するための意見交換会を開催しており、市町村長等を交えて地元の高校の存続や学校の魅力化に向けた意見交換を行っている。

また、教育の有識者等で構成される「県立高校の在り方検討委員会」も開催しており、今後、会議内容をとりまとめ、提言として県教育委員会に示されることとなっている。

県内各地域の生徒の減少は加速しており、普通科 1 学級校の増加や専門高校の定員充足状況が課題である。高校再編は予算が伴うものであり、具体の案が公表されるのはまだ先のことである。

○魅力化協働パートナーより

【学校運営協議委員 I 委員】動物科学科

6 月中旬、動物科学科の生徒を対象に、家畜審査に関する学習会を実施することとしている。

今年は学校と協働したグリーンツーリズムの活動を企画し、中学生等に農業の魅力を伝える取組を実践したい。農業高校の魅力を中学生に伝えることで、入学生徒の確保にもつなげたいと考えている。

【学校運営協議委員 A 委員】植物科学科

当研究センターでは作物と園芸について実践的な研究に取り組んでおり、担当研究室ではブルーベリーとリンゴを専門に研究を行っている。

今年度、日本ブルーベリー協会設立 30 周年事業として盛岡市内で「全国産地シンポジウム」を開催することとなっており、その大会において、岩手のハイブッシュブルーベリーに関する基調講演を行う予定である。

学部の施設等を活用してブルーベリーについて広く知っていただくため、食べくらべ等のイベントも開催したいと考えている。

【学校運営協議委員 I 委員】食品科学科

学校でバターロール製造講習を実施したところ、生徒は楽しく実習に取り組んでくれた。今年度は2年ぶりにローソンとコラボした盛農パンを開発することとしており、10月の発売に向けて準備を進めている。11月を目途に商品開発の検証を行い、マーケティングに関する講義を行うことで生徒の専門性の深化を図る予定である、

【学校運営協議委員 J 委員】人間科学科

人間科学科の生徒たちを当施設に迎え、ハンディキャップをもつ利用者と一緒にマリーゴールドの定植作業を行った。農業の経験がある利用者もおり、そのような方は嬉々として生徒との実習に取り組んでいる。また、より良い農業体験を生徒とともに行いたいと熱心な利用者がいるなど好評である。

昨年度は、学校の畑に車椅子で入ることができるよう工夫していただき、利用者と生徒が農作業を行い、ピザづくりの体験もすることもできた。農業を通じた活動は利用者に好評であることから、今年度も連携を図りながら福祉の分野で農業に関わりたいと考えている。

(8) その他

(9) 閉会